

三年生の皆さん、卒業おめでとう。本校の教職員を代表して、心から祝福の意を表します。本来なら三月は木の芽時と言って木も草も一斉に芽を出し、春の開幕を告げる華やかな季節ですが、いま世界は新型コロナウイルスによって脅かされています。また、日本の将来が不安だという声もいっそうになくなりません。日本の将来はみなさんのような若い世代がカギを握っています。

さて皆さんとは入学以来三年間、ともにこの千里高校での時間を共有しました。振り返れば、いろんなことがありました。入学してすぐの六月には大きな地震があり、七月には巨大台風に襲われました。二年時には拳銃強奪事件がすぐ近所で起こりました。そして極めつけはこのコロナ禍です。入試制度も二転三転し、みなさんを混乱に陥れました。そんな社会不安にもかかわらず、皆さんは一生懸命、学校生活に励んでくれました。体育祭・文化祭で教員とともに感染症対

策をとりながら例年の学校行事と遜色ない出来栄えになつたのは皆さんの努力の賜物です。苦しいことから逃げず、真正面からぶつかるとのことの大変さ、貴さをもとに学んだ思いがしました。

さて私事ですが皆さんに伝えたいことがあります。つい二週間程前のことですが、私は心筋梗塞を起こし、入院してしまいました。心臓にある三本の冠動脈のうち的一本が完全に詰まったのです。普通なら死んでいたと手術後、告げられました。癸症してから四日ほど経ってから救急搬送されたのですが、急性ではなく、徐々に細くなっていたから、隣の冠動脈から毛細血管が伸び、多少なりとも血液を送っていたから助かったそうです。手術台でカテーテルを入れている時、このまま死んでしまうのか、誰一人、知った人もいないのにここで死ぬのは嫌だという思いがこみ上げてきました。人体の神秘を感じるとともに、

あっけなく人は命を失う存在であるとも実感しました。はかなさも感じました。今は「存命の喜び」生かされている命をいとおしむ思いが胸にひしひしと迫ってきています。生きていることを楽しまないで日々過ごせようかと思うようになりました。一瞬一瞬を生きている。命の粒が光っている。その一瞬一瞬を二度と帰らぬものとして楽しむのだ、充実させるのだと感じています。今日という日をとていとおしく感じています。心の底から私の無事を祈ってくれていた家族に対する感謝は言葉には言い表せません。せつかくの一生、決して無駄にはすまい。まずは生きているということ、そのものを楽しむのだと、現在は思っています。兼好法師は徒然草の中で、「死期は序を待たず。死は、前よりしも来らず。かねて後に迫れり。人皆死ある事を知りて、待つことしかも急ならざるに、覚えずして来る。沖の干潟遙かなれども、磯より潮の満つ

るが如し。」と述べ、死を意識しながら生を充実させることの重要性を語っています。もう一つ入院中に感じたことがあります。看護師さんの看護の仕方です。数日はベッドの上でも動くことが禁止されていました。すべてのことを看護師さんに行っていたいただきました。すべての方が私の一歩を助けていただきました。すべての方が私をしていただきたことをかなえてくれました。まるで人の心がわかっていくかのように。サントグジュペリは「星の王子さま」のなかで本当に大切なものは目には見えぬ、心で理解するものだと言いました。みなさんは次のステージで、サントグジュペリがいうこの想像力をさらに鍛え、人の心を慮り、社会の正しい在り様を実現する人間へ成長してください。世界にデビューし、皆さんの力で世界をリードして行ってください。人の心がわかる、若々しいみなさんの英気を世界は一層、必要としています。勇気をもって自分が選択した道を進んでください。そして国際社

会へと羽ばたいてください。まさに本校のキヤッチフレーズ「千里から世界へ。未来への航海」です。

最後に保護者の皆様方、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。本日は皆様方にとっても子育てからの一応の卒業です。熱を出した時には徹夜で看病し、苦しんでいる時はひそかに涙し、お子様とともに喜び、ともに悲しみ、大変な十八年間であつたと推察いたします。長い間本当にお疲れ様でした。目の前の三年生の姿は皆様のご努力の賜物です。こんなに立派な人間になりました。みなさまの子育てはまさに百点満点です。

さて、卒業生の皆さん、いよいよ旅立ちの時です。皆さんの未来は皆さん自身が創ります。充実した幸せな人生を送って下さい。最後は千里高校らしく英語で。

*May all your dreams come true.*

令和三年三月二日

大阪立千里高等学校 校長 天野 誠